

池上線池上駅・エトモ池上

東京都大田区

監理／東急電鉄、東急設計コンサルタント
 設計監修／E.A.S.T.建築都市計画事務所
 施工／東急建設



北口と駅ビル全景

プロジェクトの背景とデザイン

池上線池上駅は築100年近い平屋の木造駅舎で、東急線において最後の構内踏切解消のため、橋上駅舎化と上階の駅ビル化が構想された。「通過するだけの駅」という従来の駅概念から、「時間消費型でまちの居間となる駅」「まちをつなげ、まちのハブとなる駅」「地域性を活かした個性ある駅」にしたいとの想いで提案を行った。

池上線は約100年前に池上本門寺の参拝客のために池上―蒲田間で開業したという経緯があり、池上は池上本門寺の門前町として栄えてきた歴史がある。毎年日蓮聖人が亡くなった10月13日を中心にお会式（おえしき）

が営まれ、池上のまちを練り歩く万灯練り行列には30万人が訪れる。また、この時期に開花するという「お会式桜」は6カ月ほど花を咲かせるようである。

これらの背景から本計画は「歴史・人・まちをつなぐ駅」をメインコンセプトにデザインを行った。

池上駅北口は池上本門寺への玄関口となるため、列柱で力強く大庇を支え、まちに大きく開いた象徴的なデザインとしている。また、大庇上部は飲食店舗と連動し池上本門寺を望む「池上テラス」を配置している。

池上は池上本門寺の門前町として栄えた経緯から、2階の改札を出たコンコース両側の

商業施設は、「池上仲見世」として参道の雰囲気演出している。庇上部の木製ルーバーの間接照明は、通勤・通学者を想定して朝は元気に送り出す白色系の灯り、夕方以降は暖かく帰宅を迎える暖色系の灯りに切り替え、利用者の気分に寄り添う駅を目指した。また、「お会式桜」を抽象化したデザインで、池上仲見世から北口の列柱までビルの各所に「池上行灯」を配置しており、利用者たちを照らす光をデザイン上のポイントとしている。池上線は木造駅舎が特徴であり、池上駅も仕上げ材として多摩産の杉材を多用している。特にホームは壁、天井を杉材で覆うことで、池上線の特徴であるヒューマンスケールな



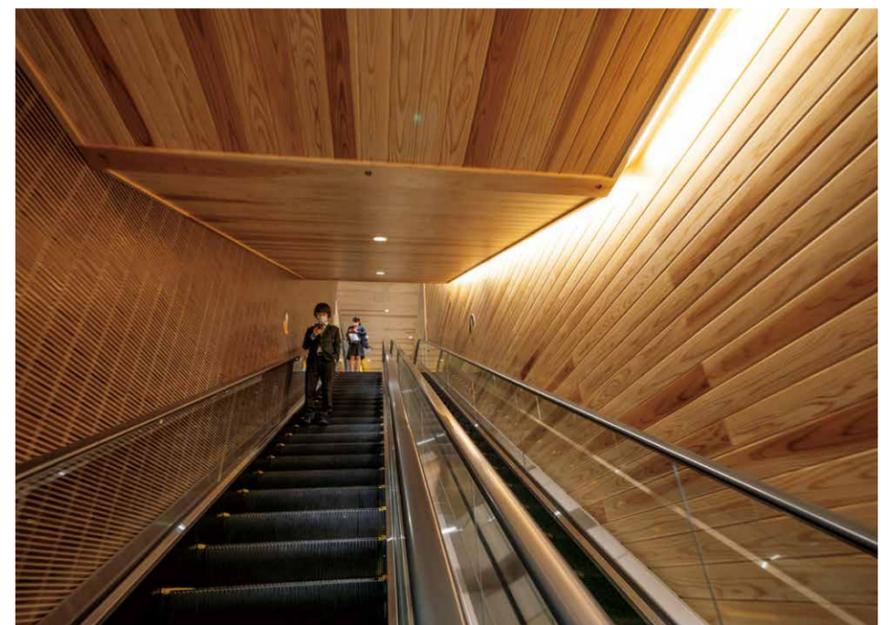
大庇を支える列柱に「池上行灯」をあしらった北口夜景

ホームを継承している。また、以前から親しまれてきた木製ベンチは壁面と一体化し再生している。駅上部にはスーパーマーケットや図書館など、生活利便施設が配置され、各階エスカレーター脇には線路を見下ろすベンチを用意している。買い物や図書館利用者など駅を通過する電車を上から望む人々が賑わっており、当初の意図通り地域の人々が佇む「まちの居間」が実現したのではないかと考えている。

(東 泰規/E.A.S.T.建築都市計画事務所)



東 泰規……ひがし やすのり
 1957年和歌山県生まれ。1983年広島大学大学院工学研究科博士課程前期修了。1986年坂倉建築研究所入社、2009年同社代表取締役所長。2013年E.A.S.T.建築都市計画事務所設立



木で覆われたホームと改札を結ぶ昇降空間



線路によるまちの分断解消のため新しく設けられた南口



列車が駅ビルに貫入する東側ファサード



断面構成図



トイレへの視線を制御する木ルーバー



木の壁面にベンチを一体化したホーム

駅からつながる商空間

エトモ池上は、商業・サービス機能を充実させ、より便利で過ごしやすい場所に「池上に住みたい・住み続けたい」と思ってもらえるような、池上エリアの新しいシンボルとなることを目指した。

改札を出ると池上仲見世が両側で賑わいをつくり、地場産品を扱う店舗や行政と連携した観光コーナーが池上らしさを演出しながら、そのままオープン空間のエスカレーターで北口に広がる商店街の賑わいへとつないでいる。

3階はスーパーマーケットとカフェテラスを併設した物販テナントで構成され、生活に密着し普段使いの用途である。まちに面した「池上テラス」からは池上本門寺を望め、まちとつながる場所としても機能する。

4階に移転した池上図書館は隣接するカフェとシームレスにつながり、利用者が本と飲み物を相互に持ち込むことのできる落ちついた空間を創出した。両施設の顔となるエントランスには門型のゲートを設け一体的な空間を強調し、図書館、カフェ、エトモ池上の共用廊下の床を全て同材にすることで、フロア全体が緩やかにつながる。

5階は保育所とクリニックで構成され、目的性の高い生活支援拠点である。親子連れをはじめ多世代が多く訪れることから、窓際には電車の車窓をイメージしたベンチを配し、ゆっくりと過ごすことのできる空間とした。

エトモ内の利用者動線結節点には、池上らしさを表現した布地のサインや旧池上駅舎の木材を再利用した「えきもく」の配置など、池上の歴史を紡ぎ、エトモ池上ならではの商環境を演出した。一方で駅から連続する紋切パターンを商業フロアでも展開させ、駅と商業施設が一体で感じられる空間を創出した。

(小島裕史/東急設計コンサルタント)



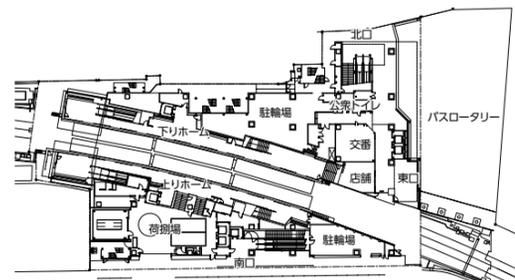
小島 裕史……こじま ひろし
1986年長崎県生まれ。2010年熊本大学大学院自然科学研究科博士前期課程修了、同年東急設計コンサルタント入社



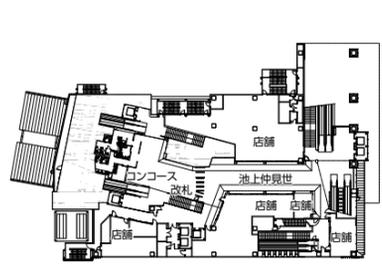
上/駅コンコースの両サイドに店舗が配置された「池上仲見世」 左下/エスカレーター正面には布地サイン 右下/カフェと一体利用できる図書館が配置された4階エスカレーター廻り



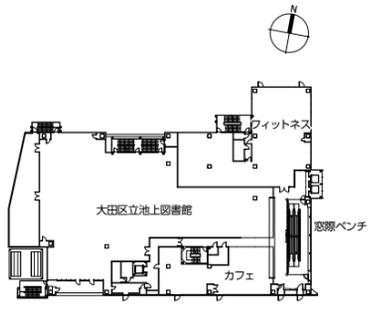
電車の車窓をイメージした5階の窓際ベンチ



配置・1階平面図 縮尺1/1,000



2階平面図



4階平面図

大田区立池上図書館

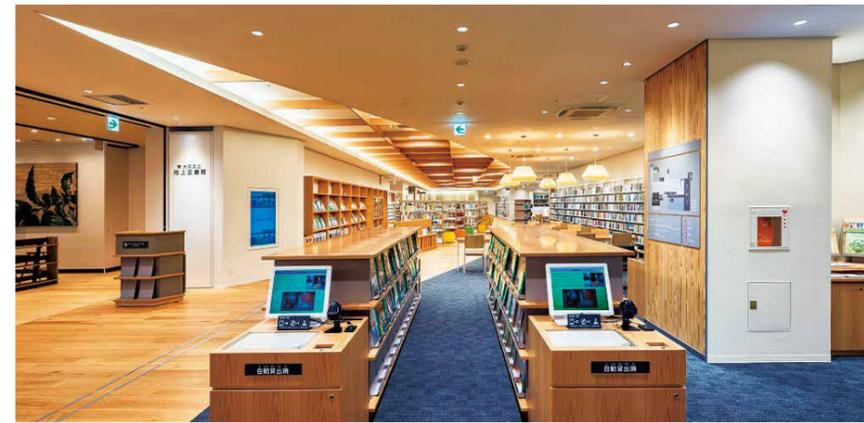
旧池上図書館は施設の老朽化、ユニバーサルデザインの未整備などのハード面における課題を有しており、エトモ池上4階への移転が計画された。

新たな池上図書館は「歴史ある門前町の未来が始まる知の拠点」を整備方針に掲げ、図書館機能の充実、気軽に利用できる図書館環境の整備、池上地域の文化と交流の拠点、新たな魅力を備えた図書館の実現を目標にした。

計画段階から利用者が最大限のメリットを享受できる空間とは何かを模索し、大田区、東急株式会社、設計者で空間のイメージや使われ方を共有した結果、隣接するカフェとつながる大きく開いたエントランスをエトモ池上共用部に設け、カフェの飲み物や図書館の本を自由に持ち込むことができる一体的な空間として、気軽に利用できる図書館を目指した。

小規模図書館ながらも奥行き深い区画であったため、いかに利用者を目的地まで導くかが課題であったが、池上線の線路をモチーフとしたカーブを描く通路と直線状の通路を配し、明快な動線計画と書架配置を行った。書架は高さを抑えて奥まで視線を通し、カーブした通路が利用者を緩やかに導くことで、本と

の出会いを楽しみつつ館内を散策できる。図書館全体は静と動を緩やかに分節するゾーニングとし、エントランスから離れるにつれて、プライベート性の高い空間とした。それぞれが思い思いの場所でひと時を過ごせ



上/線路をイメージした通路と低く抑えられた書架が奥まで視線を導く 左下/駅ビル共用部に大きく開いたエントランス 右下/スクールを抑えた児童コーナーには電車を模した読み聞かせスペース

の出会いを楽しみつつ館内を散策できる。図書館全体は静と動を緩やかに分節するゾーニングとし、エントランスから離れるにつれて、プライベート性の高い空間とした。それぞれが思い思いの場所でひと時を過ごせ

るように、児童コーナーの電車を模した読み聞かせスペース、地元産の畳を使用したベンチなど池上図書館ならではの空間を創出した。(東急設計コンサルタント)

池上線池上駅 データ

所在地 東京都大田区池上6-3-10
主要用途 駅舎、物販店舗、図書館、保育所、駐車場
建築主 東急株式会社、東急電鉄株式会社
設計・監理 東急電鉄
担当/総括：織茂彰彰、西田正志^{*2} 建築：高橋彩子^{*1}、杉山圭大^{*2}、道平進也、鈴木 稔^{*2}、栗原啓輔^{*2*3}、村上佳菜子^{*2} 土木：大塚克也^{*2}、猪八重由之^{*2}、菅原哲也^{*2} 電気：青木悠介、佐藤智仁^{*2}、武石拓馬^{*2}、青山知裕^{*2}、斎藤聖也^{*2}、鈴木誠^{*2}、鈴木昌実^{*2}、加藤凌太^{*2}、吉川直希^{*2}、中島章敏^{*2} 運輸：高木岳史、相原一行^{*2}、坂本弘明^{*2} 保線：小川明莉沙^{*2}、北林勝洋^{*2}、手塚裕一^{*2}
東急設計コンサルタント
担当/総括：高木幸二 建築：白須万寛、横山伸祐、田中 圭^{*1*3}、山口昭彦^{*2}、大室淳一^{*2}、小島裕史、武田千博^{*2}、倉 雄作^{*2} 構造：池澤 誠^{*1*3}、湯浅憲一^{*3} 設備：名取大輔^{*3}、齊藤量平^{*1}、小澤信夫^{*2*3}

デザイン監修

E.A.S.T.建築都市計画事務所
担当/総括：東 泰規 建築：磯部 陽、篠原武史^{*3}

照明デザイン

ICE都市環境照明研究所
総括/武石正宣 担当/永井宏武

グラフィックデザイン

廣村デザイン事務所
総括/廣村正彰 担当/中村一行

施工

東急建設
担当/奥津敬明、齊藤 浩、佐藤 明、篠 嘉男、村山貴紀、荒城亮太、飯島将弘、丸山 仁、田村 海

[設備概要]

敷地面積 3,490.48㎡

建築面積 2,640.32㎡

延床面積 9,525.01㎡

建ぺい率 75.64% (許容100%)

容積率 237.40% (許容500%)

構造規模 S造 地上5階

最高高さ 30.68m

軒高 駅舎・店舗棟：27.45m 駐車場棟：30.31m

階高 7.8m、5.5m

天井高さ 3.8m、3.0m、2.7m

主なスパン 24.0m×14.5m

道路幅員 北側：7.27m 南側：9.09m

駐車台数 32台

地域地区 商業地域、防火地域

設計期間 2015年8月～2017年5月

工事期間 2017年6月～2021年3月

[設備概要]

電気設備 受電方式/高圧受電1回線6.6kV50HZ

変圧器容量/単相300kVA×3台、動力500kVA×3台、

スコットトランス30kVA×1台 予備電源/250kVA×1台(燃料タンク内蔵190kVA)

空調設備 空調方式/空冷ヒートポンプパッケージ 熱源/個別熱源方式(電気)

衛生設備 給水/商業系統：直結増圧高架水槽方式 駅舎・他系統：直圧直圧方式 給湯：個別給湯方式 排水：汚水雑排水合流方式

防災設備 消火/スプリンクラー消火設備(閉鎖型)、屋内消火栓設備、連結送水管設備、不活性ガス消火設備 排煙/機械排煙、一部自然排煙 その他/誘導灯、非常照明、自動火災報知設備、非常放送設備、火災通報装置、避雷設備

昇降機 乗用エレベーター (15人乗)×4基、乗用エレベーター (13人乗)×1基、人荷用エレベーター (15人乗)×2基、エスカレーター×14基

[主な外部仕上げ]

屋根 アスファルト防水、ガルバリウム鋼板

外壁 ガルバリウム鋼板、ECP、ALC

建具 アルミサッシ、ステンレスサッシ

外構 磁器質タイル、インターロッキングブロック

[主な内部仕上げ]

コンコース・ホーム 床/磁器質タイル 壁/磁器質タ

イル、天然木 天井/天然木、アルミスパンドレル

5階共用部 床/磁器質タイル、フローリング 壁/準不燃木、石膏ボードAEP 天井/石膏ボードAEP

大田区立池上図書館 データ

所在地 東京都大田区池上6-3-10 エトモ池上4階

主要用途 図書館

建築主 大田区

設計 東急設計コンサルタント

担当/総括：白須万寛 建築：小島裕史^{*1}、吉川智美^{*1}、今井久美子^{*2} 設備：名取大輔^{*1*3}、宮城悠希^{*3}、齊藤量平^{*1*3}、小澤信夫^{*2*3}

施工

東急建設
担当/奥津敬明、坂尾展康、丹羽真紀子、高瀬悠太

船場
担当/木原 保、渡部研斗、田海幸司、小倉茂之^{*4}、

寺師一浩^{*3*4}、田中裕沙^{*3*4}

撮影/近代建築社 (ITイメージング・土戸雅裕)

図書館撮影/川澄・小林研二写真事務所 三井笑奈

(※1：設計のみ ※2：監理のみ ※3：元所員 ※4：設計協力)

協力会社

金属工事・鍛冶工事	ユニオンメタル
柱(木目調)	エヌ・エス・ケー ニシダ工業
押出成形セメント板	ノザワ
ガラス工事	ハ光硝子
内装仕上工事	奥家商店
床タイル	ダイナワン
階段床ブロック工事	関東コンクリート工業
内装木工事	ナイス
再生木壁・軒天材工事	エア・ウォーター・エコロック